

2026 年度 第 6 回マッチングワークショップ（MWS）実施報告

本年度第 6 回目の MWS は、8 月 22 日（土）に午前 10 時から開催されました。当日は、暑いなかにも関わらず、直前キャンセルはなく 25 名の高校生が参加しました。神奈川県内の高校生が大多数を占めるなか、山形県や福島県など遠方からの参加者もいました。

参加者はビブスを着用し、名札シールに呼ばれたいニックネームを書いて MWS に参加してもらいました。今回は 4 名が 5 グループ、5 名が 1 グループの 1 教室で実施しました。

当初は教室に緊張感が漂い、集まってきた参加者の表情も硬かったのですが、席が埋まっていくにしたがって各テーブルから少しずつ会話が弾むようになり、硬かった空気が徐々に和らぎ、アイスブレイク（緊張をほぐすためのゲーム）をするまでもない空気感で開始時刻を迎えることができました。参加者の熱意と意欲を非常に感じました。

【オープニング】

まず、進行担当（ファシリテーター）から、本プログラムは入学試験ではなく、湘南工科大学の学びの特色でもあるアクティブラーニングとの相性を確認する場であるという MWS のコンセプトについて説明を行いました。その後、約 10 分間のアイスブレイクを実施し、参加者同士の交流を深めていきました。開始時に出来上がっていた和らいだ空気も超え、アイスブレイクを通じてさらに表情が明るくなっていきました。その後のグループワークに入っていくための空気はしっかりと出来上がっており、積極的な議論が期待できる状態になりました。

【前半グループワーク】

今回のテーマは最近、身近に触れる機会が増えてきているロボットに関するものでした。参加者は各自が事前に準備してきた内容をグループ内で 2 分間ずつ発表し、その後のディスカッションでも、和やかな雰囲気の中、非常に活発な意見交換が行われました。

多くの参加者は着席のままテーブル上でグラフを指し示しながら発表していましたが、中には自ら立ち上がって説明する人や、自作の資料を印刷してメンバーに配布する人の姿も見られました。各自が 2 分間という時間を有意義に使っており、それぞれが十分な準備をして臨んでいる様子が窺えました。今回のテーマは、すでに生活の中に溶け込みつつあるロボットに関することだったので、参加者はより具体的な体験も含めた内容の発表ができているだけでなく、現在の課題と今後どのように発展していくか、更にその後の課題など、より踏み込んだ内容で話し合いをするグループもありました。

【後半グループワーク】

休憩後は、ビブスの番号をもとにグループを再編成し、前半のグループワークでまとめた内容を新しいグループで 2 分間ずつ発表しました。新しいグループに切り替わったことで、参加者は緊張しながらも前半グループの代表として自分たちの考えをわかりやすく伝えようと努めていました。また、各発表の後には 2 分間の質疑応答の時間が設けられ、発表内容を更に掘り下げる質問が出るなど、活発な意見交換が行われました。

【クロージング】

振り返りシートの記入後、アンケートを回収しました。様々な学校から集まった同世代との議論を通じて、参加者の皆さんは本学が重視するアクティブラーニングの特徴や学びのスタイルを体感し、その相性を確認できたようです。更に前半・後半のグループワークを通じて参加者同士の交流も深まり、開始時には緊張した様子も見られた参加者が、終了後にLINEを交換するなど、オープンキャンパスのイベントという位置づけに留まらず、新たなコミュニティができる場となりました。

次回のMWSは、9月19日（土）に開催予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。

湘南工科大学 総合文化教育センター

榎 淳一